授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2140 号

Current awareness of palliative care and attitudes toward death in China: a cross-sectional survey

中国における緩和ケアの認知度及び死生観：横断的調査

顔　燕（いぇん　いぇん）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、中国における緩和ケア認知度及びがん患者の死生観に関する初めての大規模アンケート調査をまとめた論文である。アンケート調査は中国における 52 のウェブ上の乳がんの患者会のメンバーを対象に行い、その設計及び実施は中国人民解放軍総病院第 7 医療センターと順天堂大学大学院緩和医療学研究室とのコラボレーションによるものである。主なアウトカムは緩和ケアの認知度、また患者の「死」及び「終末期」の認識。患者の社会的・経済的な状況に関するデータを収集し、単因子及び多因子回帰分析を通して緩和ケアの認知度との関連性を分析した。 549 名の回答者から 68 名（12.4%）が「緩和ケア」を聞いたことがあるのが分かった。回答者の教育レベル及び世帯年収と緩和ケアの認知度との間に有意な関連性が認められた。最期を迎える場所としては、64.7%の回答者は「家で過ごしたい」と答えた。「死」に対しては、49.2%の回答者は「家族や友人をなくすのが怖い」との認識を示した。 中国における初めての緩和ケアの認知度及び死生観のアンケート調査を通して、現在緩和ケアの中国での認知度が極めて低いことが明らかになった。本研究は今後中国では緩和ケアの啓蒙活動が必要とされるエビデンスを示した。特に社会的・経済的に恵まれていない層に力を入れるべきことが示唆された。一方、アンケート調査を通して、患者は家族を中心に考える傾向が認められた。中国で緩和ケアを推進する際、「家族」という要素が極めて重要であること考えられる。 本論文は中国のがん患者の緩和ケアへの認識や死生観の分野で初めての研究成果であり、今後当該分野での研究に大きな影響を与えると考えられる。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。